

学年・教科・担当者	3年 社会A 三戸 敏裕
-----------	--------------

学期	月	学習内容	学習のねらい
I	4	・開国と幕府の終わり ・明治政府による「近代化」の始まり ・近代国家への歩み	○幕府や諸藩が改革を行った目的と経過を外国船の接近と関連させて説明することができる。 ○明治維新による政治の方針やしくみの変化について調べることができる。 ○文明開化により生活が変化したことを、絵画などの資料を活用して説明することができる。
	5	【歴史分野】 ・第3節 明治政府による「近代化」の始まり ・第4節 近代国家への歩み	○明治維新について、複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力に気付かせる。 ○富国強兵・殖産興業政策の下に新政府が行った、廃藩置県、学制・兵制・税制の改革、身分制度の廃止、領土の画定を取りあげ、学制など今日につながる諸制度がつくられたことや、身分制度の廃止にもかかわらず現実には差別が残ったことに気付かせる。 ○欧米諸国から取り入れた制度や文化の影響で、社会のようすや人々の生活が大きく変化したことに気付かせる。
	6	・第5章 帝国主義と日本 ・第6節 アジアの強国の光と影 ・第5章 近代(後半) ・第1章節 第一次世界大戦と民族独立の動き	○国内の社会状況や国際情勢とのかかわりなどの背景を踏まえて、欧米諸国と対等の外交関係を樹立するための長年の努力の過程で条約改正が実現したことを理解させる。 ○大陸との関係を踏まえて日清・日露戦争にいたるまでの日本の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化などを取り上げ、日本の国際的地位が向上したことを理解させる。 ○富国強兵・殖産興業政策の下、製糸業、紡績業や鉄鋼業などの近代産業が日清戦争前後から飛躍的に発展して、資本主義経済の基礎がかたまったこと、都市や農山漁村の生活に大きな変化が生じたことに気付かせる。 ○近代化遺産を取り上げるなど、身近な地域を例としながら、鉄道網の広がりや工業の発達などによって人々の生活の変化がみられた一方で、労働問題や社会問題が発生したことに気付かせる。 ○伝統的な文化の上に欧米文化を受容して、日本の近代文化が形成されたことに気付かせる。
	7	・第2節 高まるデモクラシーの意識 ・第3節 戦争に向かう世論 ・第4節 第二次世界大戦の惨禍 ・第6章 現代 現在に続く日本と世界	○国民の政治的自覚が高まり、本格的な政党内閣による政党政治が展開したこと、普通選挙制が実現したこと、米騒動をはじめ、労働運動、農民運動、社会主義運動などの社会運動が幅広く行われるようになったこと、女性の社会的進出が進んだことに気付かせる。 ○大都市の発達や都市に住む人々の生活様式や意識の変化、新聞・雑誌などの普及やラジオ放送の開始などを取り上げ、文化の大衆化が進んだことを理解させる。 ○日本が三国同盟を結び、アメリカ、イギリス、そして終戦直前に参戦したソビエト連邦などとの大戦になったこと、日本が多くの国々、特にアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下など、日本の国民も大きな戦禍を受けたことなどから、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させ、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付かせる。 ○戦時体制下で国民の生活がどう変わったかについて、身近な地域の事例を取り上げ、平和な生活を築くことの大切さに気付かせる。
	9	・第1節 敗戦から立ち直る日本 ・第2節 世界の多極化と日本の成長	○日本が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰するまでの経緯を理解している。 ○日本の産業・経済や科学技術の著しい発展とそれに伴う生活の向上や、それらを背景とする世界有数の経済大国への急速な成長、及び石油危機が政治や経済に及ぼした影響などに気付かせる。 ○沖縄返還、日中国交正常化などを取りあげ、東アジアとの新たな関係や当時の国際情勢について理解させる。

2	10	・第3節 これからの日本と世界	○世界規模での米ソ両陣営の対立が終わったことやその影響に気付かせ、冷戦終結後の国際協調の平和外交の推進や開発途上国への援助なども踏まえ、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解させるとともに、公民的分野の学習に向けた課題意識をもたせる。 ○冷戦終結後も国際社会には、民族や宗教をめぐる対立、国家を超えた地域統合、地球環境問題とその取り組み、資源やエネルギーをめぐる課題、日本と近隣諸国との間の領土をめぐる問題、日本人拉致問題など、主権や人権、平和など様々な課題が存在していること、それらを解決するための様々な人々の努力が重ねられていることに気付かせる。
	11	【公民分野】 第1部 現代社会 ・第1章 現代社会と文化 ・第2章 現代社会をとらえる枠組み	○現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解する。また、現代社会における文化の意義や影響について理解させる。 ○私たちが生きる現代社会と文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。 ○対立と合意、効率と公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにさせる。
	12	第2部 政治 ・第1章 日本国憲法	○人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解させる。また、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であること、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていること、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解させる。 ○我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現させる。
		・第2章 民主政治	○民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。 ○我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現させる。 ○人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。
3	1	・第2章 民主政治（12月に引き続き） ・第2章 課題の探究	○個人を尊重し、基本的人権を守る政治を実現するためには、公正な世論の形成や選挙など、国民の政治参加と国民の意思を国政や地方の政治に十分反映させることが必要であることを理解させる。
	2	・入試対策（模試5回分）	○民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 ○民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。 ○地方自治の考え方について理解し、地方自治を発展させるためにどのように私たちが地方自治の政治に参加すべきか多面的・多角的に考えさせる。 ○私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。
	3	・特別時間割	

評価について	
評価の観点	評価の方法
知識・技能	定期テスト 小テスト レポート など
思考・判断・表現	定期テスト 小テスト レポート 提出物 課題など
主体的に学習に取り組む態度	レポート 授業に取り組む姿勢（グループ学習やペア学習など） 課題 定期テスト